

研修ガイドラインと研修内容についてワークショップで検討しました

小作業部会で開発してきた、新卒看護師のための臨床研修と指導者研修の運用方法をまとめたガイドライン、そして、研修内容について関係者の皆様から意見をいただくワークショップを、プロジェクトサイトの一つであるビンディン省で開催しました。

ワークショップには日本からもプロジェクト開始時点の現状調査を担当した鶴田専門家、研修システムアドバイザーとして末永専門家の2名をお招きしました。鶴田専門家からは調査結果について発表がありました。末永専門家からは「看護師免許取得にふさわしい看護師が育つことをゴールに考えて、実行可能かどうか」という視点で具体的なコメントをいただきました。

参加者からは、これまで各小作業部会が作成してきたガイドラインやカリキュラムについて整合性を図る必要性があること、研修生の人数に対して十分な指導者を施設で確保する必要があること、研修実施体制については各病院の状況に合わせて柔軟に対応する必要があることなど、多くの意見を聞くことができました。

ワークショップの2日目は同省タイソン郡・プーフォン病院を訪問しました。はじめに、病院長から研修に関する現状について説明していただき、指導者育成がまだ十分にできていないこと、教材等が不足していることが述べられました。省の総合病院とは異なり、設備や人材が十分とはいえない状況の地方の小規模病院が、ガイドラインに基づいた研修を実施するためにはどのような仕組みが必要かという視点で視察し、開発中の臨床研修が郡レベル病院でも実施可能か、どんな点で実施が困難か、どんな工夫が必要かなどを検討しました。プロジェクトではワークショップの結果を踏まえてガイドライン等の修正を行い、試行に向け準備します。



ワークショップでコメントをする末永短期専門家



調査発表を発表する鶴田専門家と熱心に聞く参加者



プーフォン病院で現状について話しを聞く参加者の看護師、省総合病院の院長、保健局看護担当者